

梶井基次郎：「檸檬」

梶井基次郎の小説「檸檬」を選んだ理由は、だからです。

この小説の第一印象は、読みにくい / 内容がわかりづらい / 暗い / 内容がまったく理解できないから /

たくさんの人には好かれない / 読んでいて疲れてしまう / 主人公に感情移入できない 作品だと思いました。

主人公の「私」の思ったことや見た風景が書かれていますが、私は
の部分が共感できました / ふしぎに思いました。

の場面では、興味深いもの / ふしぎなもの / 古めかしいもの /
何のことを言っているのかわからないようなもの / 調べてみないとわからないもの がたくさん書かれています。

私は だと思いました。

私は（好きな食べ物 / くだものなど）が好きです。なぜなら、その形 / 色 / 香 / 味 / 手ざわりが
他のどんな（好きな食べ物 / くだものなど）と比べても で、一番好きですからです。

（その好きなもののエピソードと、その好きなものを手に入れたときの幸福な気持ち）

だから、私は「私」がたった一つの檸檬を手に入れたことで幸福を感じている気持ちが、
少しだけ / とてもよく / なんとなく / 半分くらいは / 自分のことのように わかります。

「私」は昔好きだった「丸善」へ行くことで、幸福だった気持ちがだんだん逃げていってしまいます。

私も なとき、
（幸福感を感じたけど、元気がなくなったエピソード） ということがあり、
だと思いました。

もし私が丸善の店員なら / 本好きな人なら / その場にいたお客さんなら、きっと
（「私」に対して） すると思います / と考えたかもしれません。

なぜなら だからです。

私は落ち込んだときに、（自分の解決方法） をします / と考えるようにします。
たとえば、（落ち込んだ気持ちを克服したエピソード） ということがありました。

そのときから私は、 するように / と考えるようになりました。

この小説を読んで、私は「私」に対して を感じました。 / と考えました。

私はこの本から、
ということ学びました。 / 考えさせられました。 / 気づくきっかけになりました